

- | | |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| ● ひびき | ① 古郷 懐古 |
| ● 組合行事 | ② 平成25年度『全国電気使用安全月間』 |
| ● 情報 | ③ 平成25年度電気保安功労者表彰
④ 京都電気消防設備団体連絡協議会 活動報告
⑤ 関西電気工事工業会青年部連合会 第三回会員大会開催
⑥ 賠償責任事故について |
| ● ひろば | ⑦ 「プロ野球で学んだリーダーシップ」 --山本一義氏に学ぶ-- |



くちなわざか
—口縄坂—

口縄とは蛇のことで、この坂が、崖を蛇が這う様子に見えたことからなづけられたそうです。司馬遼太郎作「燃えよ剣」に土方歳三と恋人のお雪のこの坂での逢瀬の場面が出てきます。坂を登って右側に織田作之助の文学碑があります。今年は、織田作之助生誕100年にあたり、NHKで森山未来と尾野真千子、当代若手随一の芸達者による隆吉、蝶子で「夫婦善哉」がドラマ化され、再び注目されています。オダサク（大阪人の織田作之助に対する愛称）が生き、作品に描いた天王寺、阿倍野、浪速、西成界隈の上町台地の空間を裂くようにそそり立つ「あべのハルカス」。

「あべのハルカス」が、全館オープンを迎えるのが来年春。この界隈を知り尽くした町田康、津村記久子、モブノリオ、川上未映子という大阪に縁のある最近の芥川賞受賞作家たちが、この日本一の高さのビルの周りを舞台に、アバンギャルドな世俗小説を書き、オダサクのように商品や店を有名にし、地域に貢献してもらうことを期待し、改めて大阪ミナミの文学力の凄さを確認しています。



- ひびき ① 古郷 懐古
- 組合行事 ② 平成25年度『全国電気使用安全月間』
- 情報 ③ 平成25年度電気保安功労者表彰
- ④ 京都電気消防設備団体連絡協議会 活動報告
- ⑤ 関西電気工事工業会青年部連合会 第三回会員大会開催
- ⑥ 賠償責任事故について
- ひろば ⑦ 「プロ野球で学んだリーダーシップ」 --山本一義氏に学ぶ--



古郷 懐古



奈良県電気工事工業組合
理事長 尾上 剛二

始に、文壇家でも無い私が短文すら書く能力を持ち合わせの無いのに、随筆など到底書き綴る能力など全く無い、先ず内容を記する難しさに困窮する自分の愚劣さを露呈する処でもある、文面に多々辻褄の合わない部分は寛容なご理解を希うところである。

この夏、類の見ない異常気象から激暑とも猛暑とも称される馬鹿暑い日が連続する中では有りましたが、毎年わが家の慣行でもある田舎への墓参りだ、山村の鄙びた村里へと今年も帰省した。既に実家は伊勢湾台風の時に、山崩れと土石流で消失しており宿は父方の実家に宅した。

山麓では、早くも彼岸花の開花を見るが何時もなら山里の涼しい所である筈が流石この暑さには耐えず濃い紅の鮮やかな美しき姿は、奇しくも色褪せていたのには驚きでも有りました。

尚、どの様に有ろうと田舎帰りには何となく哀愁に耽る物である。殊に幼少期時代に過ごした場所、其れぞれ昔を思い浮かべる事非常に懐かしい限りで有ります。あの山、この川、又野径は変わらず当時の跡が残って居ます。通い慣れた一般道は綺麗に舗

装されていますが昔の景観は今も維持されています。

室生寺から奥深い山家である此の地は、私にとって生涯消し得る事の出来ない故郷であり、正に年を増すに従い故い思いに浸る事幾多である。故郷は遠きに有りて思う物とは実に其の通りである。幼少年期を過した地で有り回想するも懐かしくも有り寂しくも有る。故郷は既に過疎化が加速し住居も点在する中、居住者なき家の目立つの誠淋しい限りであった。元々当地域は近所隣りと云っても結構距離が有った、然しながら今は更に距離が離れているにも関わらず近所の付き合いは密である事は古き良き昔と寸分かわらない。田舎で暮らした経験の無い町人には味わえない情景であろう。今下町に暮らす私には強く郷愁を得る訳で有り、故郷を思い抱くは田舎育ちの者に得る特権で有ると自負する者で有ります。然し帰郷する度に田舎が、山里が様変りで記憶に相反して昔の名残が消去される事が気掛かりです。時の推移に逆行は出来ません。今や田畠は植林され山林化が進み村人の職種も林業、農業、炭焼き事業は生計の対象外と形り道路や交通の開発から村外へ勤める人が殆ど聞きます。

そうは云っても（住めば都）で如何なる辺鄙でも永住する人も少なくありません。

そうした中、久方ぶりに同郷で暮らす同級生と済みし昔を語り合った事が何よりの慰めでも有り、故郷は古きが故に意義がある。

日々健康に感謝

平成25年度『全国電気使用安全月間』

— 各府県工組で地域社会に応じた多彩な活動を展開
安全・安心さらにECOの推進を、力強くサポート —

昭和56年から毎年恒例として実施されている「全国電気使用安全月間」（8月1日～8月31日）の運動が、本年も経済産業省主唱のもとに、全日本電気工業事業工業組合連合会、各ブロック組合連合会（関西電気工事工業会）、各都道府県電気工事工業組合の主催により全国的に展開されました。

この電気使用安全月間は毎年8月に集中的に電気安全運動を実施し、電気事故の未然防止と安全意識の高揚を図っているもので、本年で33年目となります。

その実施項目は

- ① 地域社会に視点をおいた電気使用安全に関する啓発指導
- ② 漏電遮断器の取付推進
- ③ 不良電気設備の改修工事の実施
- ④ 電気設備の安全診断の実施
- ⑤ 電気設備のリニューアルの推進
- ⑥ 電気安全啓蒙キャラバン隊の実施
- ⑦ 電気工事士に対する研修の実施
- ⑧ 200V化の普及促進

の8項目です。さらに今年も東日本大震災に起因する電力不足への対応を業界としても協力するために、合わせて電気のECO（節電、省エネ）の推進活動を行いました。

関西地区では官公庁、諸団体のご協賛とご支援をいただき、関西電気工事工業会傘下の近畿地区各府県工組において、「電気使用安全リーフレット」「ECO推進リーフレット」「団扇」等のPR用媒体を作成し、多彩な行事の場で配布するなど、一般の方々に電気使用の安全啓発と電気災害事故の防止さらにECOの提案、啓発活動を

行うほか、各府県の特色に合わせて、電気安全、ECOのための移動無料相談所の開設や電気設備の無料点検、街路灯の清掃、公共施設等の電気設備点検、独居老人宅の配線診断、今私たちにできるECO生活の方法提案等多彩な奉仕活動を実施して、地域と密着した中で業界への信頼と電気使用安全の確保、電気のECO推進に多くの成果を上げることができました。

各府県ごとの実施内容は以下のページに記載しています。

あなたが防ぐ電気事故

各地の電気注意レポート

タコ足配線等による発火

自然災害による電気事故

設備の保守不良によるトラブル

汗などによる作業中の感電事故

電気使用安全月間

2013年8月1日～31日

主唱：経済産業省

平成25年度
重点活動テーマ

- 電気けむだなく安全に使いましょう。
- 自家用設備の電気事故は適切な保守点検と更新で防ぎましょう。
- 突然やってくる自然災害にそなえ、日頃から電気の安全に努めましょう。

●電気使用安全月間

大阪府電気工事工業組合

大 阪

大阪府電気工事工業組合では8月1日（木）8時45分、正副理事長をはじめとする関係役員と職員合わせて18名が大阪府電気工事技術会館に集合しキャラバン隊を実施しました。

いつもの法被にかえて今回はお揃いのブルーのベストを着用し、会館前の集合写真を終え関西電力大阪北支店へと向かい関電社員の方々の出迎えを受け、



大阪府電気工事技術会館前

西野理事長が岡田支店長に趣旨説明と趣意書を手渡しました。関西電力大阪北支店からは2台のジャンボタクシーに分乗し、中部近畿産業保安監督部近畿支部へ向かい沖嵩支部長へ、大阪

府政策危機管理室では福井室長に、また関西電力本店では高市部長へ、それぞれ挨拶と趣意書の手渡しを実施しキャラバン隊は無事終了いたしました。



近畿支部長



関西電力㈱ 高市部長



中部近畿産業保安監督部近畿支部前

京都府電気工事工業組合

京 都

経済産業省主唱のもと、「電気使用安全月間」が今年も8月の1ヵ月間、全国で展開されました。

京都では電気使用安全月間活動に先駆けて8月2日（金）に松井理事長はじめ本部役員が組合を代表し関西電力㈱京都支店、京都市消防局、京都府庁、関西電力㈱京都営業所の順に訪問いたしました。

各訪問先では趣意書を手渡し、主に高齢者宅配線診断の活動への理解と協力をお願いいたしました。

高齢者宅配線診断は、今年度で31回目となりまし



関西電力㈱ 京都支店

た。診断を始めた当初と比べると住宅も良くなり、診断箇所も年々減ってきてはおりますが、訪問先では喜んでいただき、感謝の言葉とともに「今後も継続して欲しい」とのお声をいただきました。これからもこの配線診断を継続し、安心して電気を使用していただけるよう、一般用電気工作物の保安確保と電気災害の防止に努めてまいりたいと考えております。

猛暑の中、ご参加ご協力いただきました関係者の皆様、組合員の皆様、ありがとうございました。



消 防 局

兵庫県電気工事工業組合

兵 庫

猛暑の続く中、恒例の『電気使用安全月間』活動を8月1日から1ヶ月間実施しました。

初日、組合本部役員は関係機関を巡訪し趣旨説明と協力支援を依頼しました。各支部では、啓発キャラバン隊を編成し市役所など公共団体へ活動の周知や駅前広場・商業施設前での無料相談所の開設・チラシ配布によるPR、公園街路灯の点検・清掃の奉

仕活動等において多くの組合員が協力し、地域社会との交流を深め、組織の力を發揮した多彩な運動を展開し電気事故防止を訴えました。



児童公園外灯点検



本部 兵庫県庁前にて



電気無料相談所

奈良県電気工事工業組合

奈 良

今年も8月1日から31日までの1ヶ月間「電気使用安全月間」運動が全国一斉に展開されました。



関西電力(株)高田営業所の皆様に激励を受け出発



8月6日（火）高田地区、8日（木）奈良地区、9日（金）柳生地区と3日間にわたり、各市町村にキャラバンを繰り出し、趣旨説明と協力支援を依頼し安全を呼びかけました。また各支部では猛暑の中、相談会、公共施設の電気設備の点検、防犯灯や街路灯の点検・清掃などの奉仕活動や電気使用について安全啓発のチラシを配る等、事故防止を訴える活動を行いました。

組合本部



関西電力(株)高田営業所

街路灯点検



月ヶ瀬行政センター

●電気使用安全月間

滋賀県電気工事工業組合

「電気使用安全月間」啓発活動

毎年8月の恒例行事として全国的に展開されている「電気使用安全月間」の運動を、滋賀県電気工事工業組合としても8月1日より8月31日までの間実施致しました。例年のとおりキャラバン隊による啓発活動、幼稚園・保育所などの公共施設と高齢者住宅の無料点検、電気設備無料診断、電気に関する無料相談所の設置等が各支部単位で「電気使用安全月間」の趣旨説明並びに電気安全使用の啓発とあわせて行われました。



電気に関する無料相談（高島支部）

滋 賀

当工組と致しましては、滋賀県並びに県下全市町と防災協定の締結を全て終了し、さらに市町の防災訓練にも積極的に参加し、ライフルインである電気設備に携わる者として「電気使用安全月間」の間だけの取組でなく、日々地域住民に対し電気災害の防止を訴え、自然災害に備えた電気の安全使用についても努めていく所存です。



高所作業車を使っての清掃作業（近江八幡支部）



市役所へ趣旨説明（八日市支部）

和歌山県電気工事工業組合

和歌山

今年度も恒例の「電気使用安全月間」による街頭キャンペーンを8月2日（金）に実施しました。

泉副支部長を先頭とするキャラバン隊（関西電力様、関西電気保安協会様ご協力）午前9時45分に関西電力さんを出発し、市内一円を街宣活動しました。

J R和歌山駅前では、ご通行中の方々にチラシに



関西電力㈱ 和歌山営業所

パンフレット、団扇を配布するなどのPR活動を行い、電気使用の安全をお願いいたしました。

昭和56年から経済産業省の主唱によって始まったこのキャンペーンですが、今後も継続することに意義があると感じています。



J R 和歌山駅前

平成25年度 電気保安功労者表彰

平成25年8月1日（木）11時より東京會館「ロイヤル」において電気保安功労者経済産業大臣表彰式が行われました。

また、平成25年8月29日（木）10時30分より帝国ホテル大阪において電気保安功労者の中部近畿産業保安監督部近畿支部長表彰ならびに関西電気安全委員会委員長表彰の表彰式が行われました。表彰を受賞された皆様お目出度うございます。

経済産業大臣表彰

氏名	社名	府県
坂元 宣之	坂元電気株式会社	兵庫県

中部近畿産業保安監督部近畿支部長表彰

氏名	社名	府県
橋 二郎	木幡電気工事株式会社	京都府
谷本 宗城	伸和電設株式会社	和歌山県
中谷 種治	たつみ計装株式会社	滋賀県
益田 進	益田電機商会	京都府
村田 啓介	有限会社村田電創	京都府

関西電気安全委員会委員長表彰

氏名	社名	府県
東森 忠男	松田電気株式会社	滋賀県
中西 良雄	富田電機株式会社	大阪府
西村 滋二	株式会社トキワ電機設備	大阪府
松本 道雄	松本電気工事株式会社	大阪府

京都電気消防設備団体連絡協議会 活動報告

加盟4団体（京都府電気工事工業組合、京都府電気工事工業協同組合、（社）京都消防設備協会、京都府電機商業組合）の合同事業として、高齢所帯の「防火と電気の安心安全」事業を下記要領により実施いたしました。



出発式の様子（門川市長から激励を頂きました）

～住み続けたい街・京都～ 高齢所帯の「防火と電気の安心安全」事業

【実施日】

- ◆平成25年9月13日（金）午前9時～
京都市内各消防署に集合、出発
行政区：左京、中京、東山、山科、南、右京、
西京、伏見、醍醐
※中京消防署で出発式開催
- ◆平成25年9月20日（金）午前9時～
行政区：北、下京
- ◆平成25年9月27日（金）午前9時～
行政区：上京

この事業は本年度発足した「京都電気消防設備団体連絡協議会」を構成する4団体が合同で実施する

初めての取り組みで、京都市内の高齢者宅を訪問し、「火災報知機の設置状況」や「分電盤等電気設備の状況」「電気器具の使用状況」を点検して、「火災からお年寄りを守る」活動として実施しました。

訪問に先駆け、中京消防署で協議会役員が集合し出発式を挙行しました。出発式には門川市長も駆けつけてくださいり、激励のことばをいただきました。この事業は市内11行政区と伏見区の醍醐地域を加えた12地域で、各地域の約10世帯の高齢者世帯を対象に実施しました。

各世帯には、消防局職員の先導で4団体の技術者が訪問して点検作業を実施しました。点検作業にあ



南消防署

●情 報

たってはマニュアルを作成し、1行政区2班体制で各世帯の火災報知機の点検や分電盤などの電気設備及び電気器具の点検等をしました。

なお当日の協力組合員、会員対象に、高齢者宅訪問時接遇研修を8月22日（木）午前10時より京都府医師会館にて講師を招いて行いました。

当日お忙しい中、この事業にご協力頂いた組合員各位に厚くお礼申し上げます。



左京消防署

関西電気工事工業会青年部連合会 第三回会員大会開催



9月28日（土）ラマダホテル大阪において、関西電気工事工業会青年部連合会主催の第3回会員大会を開催致しました。今回は近畿ブロック青年中央会のご協力を得て、お互いの業界PRとネットワークを関係団体にまで広げ、会員各社や組合の発展、さらにはビジネスチャンスにも繋げることを目的として異業種交流を行いました。中央会とは様々な組合が加入する組織で、各府県電気工事工業組合も会員となっています。

電気工事組合側と中央会側の組織紹介に始まり、意見交換会では会員、中央会の他に、来賓としてお越しいただいた親会の皆様や全国の各ブロック青年部代表者が各テーブルに分かれ、「青年部に入って良かった事、悪かった事」をテーマに意見交換を行いました。どのような業種にも合うようなシンプルな議題をもとに、異業種組合の違う視点での意見を聞くことができました。

意見交換会終了後は、全国設備業IT推進会のご

協力のもと、「5×3×2戦略」と題し、経営戦略セミナーを行いました。思い込みや固定概念から視点を変えて、柔軟な考えをもとに物事を見直すことの重要性や、他社にはない自社の強みを持つ必要性がよくわかりました。

懇親会では、府県ごとに電気工事組合会員、親会、中央会全員が登壇していただき、1人1人に一言ずつスピーチを行っていただき盛り上りました。

この会員大会をもとに、異業種組合とのネットワーク構築のきっかけとなり、会員相互の結束力がより強固なものとなったと思います。

（関西電気工事工業会青年部連合会 監事 西 真文）



賠償責任事故について

全日電工連第三者損害賠償制度に加入している組合員全体で、2011年4月1日から2012年3月末日までに処理をした損害賠償責任に関する事故（1,192件）について、集計したものは次のとおりとなっています。

事故種別	損害種別	冷凍動植物 内容物	設計図	貴金属・美術品	地下埋設物	コンピュータ	関連機器	光ファイバー	建物・什器類	ケーブル類	車両	その他	合計	構成比率
誤結線・誤接続	2				16			209	59		20	306	26%	
掘削・穴あけ誤り		1	31	2		3		88	55		2	182	15%	
転倒・落下・衝突（人）						3		29	4	2	10	48	4%	
転倒・落下・衝突（物）	1		2	2		2		138	28	69	13	255	21%	
その他	24	3	2	4		4		243	46	14	61	401	34%	
合計	27	4	35	24	12	707	192	85	106	1,192				

諸々の要因である「その他」を除くと、「誤結線・誤接続」による「建物・什器類」の損害が209件、「転倒・落下・衝突（物）」による「建物・什器類」の損害が138件、「掘削・穴あけ誤り」による「建物・什器類」の損害が88件となっています。

作業中の作業場所周辺の養生と安全確保、また、作業後の確認が非常に大切であることが伺われます。この様な賠償責任事故はゼロにするのは当然ですが、万が一のためにも「第三者損害賠償制度」への加入、ならびに更新忘れの無いように留意して下さい。



「プロ野球で学んだリーダーシップ」 -山本一義氏に学ぶ-

和歌山県電気工事工業組合



熱弁を揮う山本一義氏 -和歌山高専にて-

この寄稿文がみなさんの目に触れる時は、おそらくプロ野球日本シリーズが始まっている頃だと思います。今年のプロ野球は、

例年なく話題が豊富な年ではなかったでしょうか。イチロー選手の日米通算4,000本安打達成に始まり、東北楽天イーグルス田中将大投手の連勝記録、また新人選手では阪神タイガースの藤浪晋太郎君や北海道日本ハムファイターズの大谷翔平君など、将来の日本プロ野球を背負っていると言っても過言ではないほど、素晴らしい選手が活躍した年でした。きっとみなさんも同感だと思われていることでしょう。

さて、私は和歌山市内で電気工事業を営んでおりますが、一方で和歌山県営紀三井寺公園（陸上競技場、球技場、野球場、テニスコート、相撲場など）の指定管理者として運営・管理にも携っております。その仕事柄スポーツ選手と接する機会も多く、先日も全日本少年硬式野球連盟（ヤングリーグ）の会長で、日刊スポーツ評論家の元プロ野球選手、山本一義氏と会食する機会がございました。若い世代の方には馴染みが薄いかも知れませんが、年配のプロ野球ファンの方ならご存知の方も多いのではないかでしょうか。

私が初めて山本一義氏とお会いしたのは、6年前にプロ野球マスターズリーグの野球教室を和歌山県田辺市に誘致した際、来県されたのが最初でした。当時の山本一義氏は、吉田義男氏（阪神）が監督を

務める大阪ロマンズのヘッドコーチとして采配をふるわれ、また全国各地で後進の指導もなされていました。

そして、今年の



マスターズリーグ講演会にて
-2007年 和歌山県田辺市-

副理事長 吉川 幸夫

7月に和歌山工業高等専門学校の教職員や学生たちへの教育プログラムの一環として講演のために再度来県されました時に、山本一義氏が野球人生から学んだ経験談を熱く話されました。その内容を披露させていただきます。

その前に、山本一義氏のプロフィールをご紹介します。

山本一義氏は1938年（昭和13年）広島市に生まれ、広島商業から法政大学に進学。大学時代は1年からレギュラーになり4年次は主将として12年ぶりのリーグ優勝に貢献されました。

プロへは恩師である鶴岡一人監督率いる南海ホークスに入団が決まっていましたが、広島カープ名誉会長の池田勇人（後の内閣総理大臣）に強く説得され、1961年（昭和36年）地元広島カープに入団しました。現役時代は地元出身の選手としてファンに愛され、四番打者として大活躍。低迷するチームのなかで山本一義氏の存在は大きな役割を果たし、1975年（昭和50年）の初優勝を見届けて現役を引退されました。

引退後は広島カープや近鉄バファローズの打撃コーチなどを務め、広島カープのコーチ時代にはスイッチヒッターとして高橋慶彦を育成。1982年（昭和57年）にはロッテオリオンズの監督に就任し、落合博満の三冠王獲得など指導者としてもその手腕を発揮されました。

選手として、そして指導者としても輝かしい実績をお持ちの山本一義氏は、現在、少年野球の指導だけでなく、全国各地で講演活動をされています。

このように多方面でご活躍の山本一義氏が必ず講演でお話しするのが、1975年



山本一義氏と現役引退時の
長嶋茂雄氏（写真右）- 1974年 -



ロッテ監督時代の山本一義氏と落合博満氏(写真右)

(昭和50年)に日本球界初のメジャーリーガー出身で、広島カープの監督に就任したジョー・ルーツ氏との出会いです。監督在籍期間としてはわずか数ヶ月という非常に短い間ではあったが、彼は低迷を続けていた広島カープの指導者としてチームカラーを今までの「紺色」から「赤色」に変えました。そうです!「赤ヘル軍団」はここから始まったのです。そして彼は「広島カープの仕事はチームが勝つことである。勝つことで選手が喜びを感じ、そしてそれがファン、あるいは広島市民を勇気づけ、活性化させるのである。」と就任時に話されたそうです。その言葉に感銘し勝つことへの意識に芽生えたカープ選手は、勝つための行動としてすべてに「勝つため」という言葉を前置きにして試合に臨みました。レギュラー選手は勝つためのプレイをし、控え選手は相手ベンチのサインを盗み、またある選手は相手選手の動きを分析して勝利に結びつけるというように、それぞれの役割と自覚を持って行動しました。

その結果、今まで「今日の試合、負けました。」と言っていた選手たちが、それ以降「今日の試合、勝てませんでした。」と言うように彼等の言葉から変化が表れ、「勝つため」ということにチーム全体の意識も変わっていったのです。

その半年後、彼の後を引き継いだ古葉竹識監督時に、広島カープは球団創立25年目にして悲願の初優勝を遂げたのです。広島市民は彼の功績を大いに賛えました。そして「この経験がカープ選手だけではなく、私にとってもその後の指導者として大きな影響

を与えたエピソードである。」と山本一義氏はこのように話されました。

私たちのビジネスにおいて、もちろん勝ち負けだけで判断できないところもありますが、「私は営業だから…、私は経理だから…」とか「工務には関係ないよ…」など、個々の立場を主張するのではなく、それぞれの自覚と責任を持ち「チーム一丸」=「全社一丸」となって「勝つため」という意識を高めていけば、きっとこのように良い結果が生まれてくることでしょう。

また、山本一義氏は最後に「リーダーとは"熱い想い"を持っていなければならない。そして信頼されなければならない。野球においても選手の長所をうまく見出してあげるには、まず相手の目を見て指導すること。すると選手の目が輝き出し、そして最後には自信へと繋がっていく。何事も物事を変えるには違和感がある。人間、やりやすい方向に流れていいくが、良いと思えばとにかくやってみること。しかし、一人頑固はいけない。学んでみることも大事である。指導者とは"教える"専門家であるが"学ぶ"専門家でもなければならない。その謙虚さと素直さを持ち合わせるのもリーダーの仕事である。」とのようにも話されました。



広島東洋カープ創設60周年を記念してつくられたレプリカ

経営者である私にとって、山本一義氏の言葉が「学び」であり、人生の指導者としての「教え」であると痛感した有意義な会食のひと時でした。

最後になりましたが、御年75才になられる山本一義氏のますますのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げたいと思います。



阪急ブレーブスとの日本シリーズ
- 1975年 広島市民球場にて -

でんせつ

発行日／2013年11月 第171号
発行／関西電気工事工業会(2府4県)
大阪市北区本庄東2丁目3番38号
TEL 06(6371)5534・FAX 06(6371)2338
発行人／向山 和義 事務局 栗田 直訓

発行部数 7,600部 年4回(1・4・8・11月)発行

委員長	橋詰 源治
委 員(大 阪)	小森 敏鑑
委 員(京 都)	植田 隆夫
委 員(兵 庫)	坂元 宣之
委 員(奈 良)	福本 幸一
委 員(滋 賀)	藤本 一矢
委 員(和歌山)	吉川 幸夫

2013

NO.4

平成二十五年秋号（季刊発行）

発行所：関西電気工事工業会